

文字と文の理解

2017.11.5 新潟定例会

藤坂龍司

1. 文字の読み

(1) ひらかなの読み

ひらがなは幼稚園年中くらいから教え始めるとよいだろう。

物の名前付けと同じ要領で教える。二枚の文字カード（例えば「あ」と「い」）を並べて、「あ」と言ったら「あ」のカードをタッチさせ、「い」と言ったら「い」のカードをタッチさせる。最初はプロンプト。徐々にフェーディング。ランダムローテーション。受容ができれば表出させる。



同じ要領で、50音のうちまず清音を受容、表出の両面で教える。

<濁音の読み>

清音の次は濁音。例えば「は」と「ば」のカードを並べて、受容→表出の順に教える。このとき、濁点を太く書いて強調したり、色を変えたりするとよい。



「は」と「ば」が区別できたら、同じ要領で、残りのば行をは行と区別させる。その次はが行、ざ行、だ行。最後にはば行（半濁音）をは行とば行の両方から区別させる。

<小さい「っ」>

「こっぷ」などの小さい「っ」の読み方を教える。「こっぷ」というカードを見せて、これを「こっぷ」と読ませることは比較的簡単だが、それだけでは、小さな「っ」を理解したことにはならない。このままでは「こぷ」も「こっぷ」も「こっぷ」と読んでしまう可能性が大きい。

そこで「こぷ」「こっぷ」「こっぷ」の三つを弁別させる訓練を行なう必要がある。

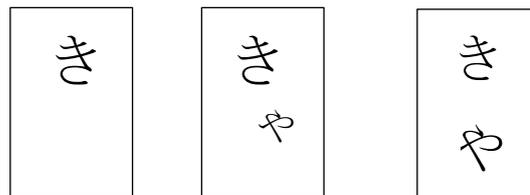
「こぷ」「こっぷ」「こっぷ」と書いた三枚のカードを用意する。



このとき、三つの違いをできるだけ強調する。「こぶ」はできるだけ早く、「こっぶ」はたっぷり間をあけて。また指を使って三つの違いを視覚化する。「こぶ」と言いながら、カードの上に指を素早く走らせる。「こっぶ」は「こ」から「ぶ」まで指をジャンプさせる。「こつぶ」は三つの文字を指で一つずつポインティングする。

<小さい「や」「ゆ」「よ」>

「きゃ」「きゅ」「きょ」などの小さな「や、ゆ、よ」の読みを教える。このときも小さい「っ」と同じ問題がある。「き」「きゃ」「きや」の三種類を区別させなければならない。



この三つの弁別ができたならこれで終わりではなく、さらに実際の単語で、例えば「きべつ」「きゃべつ」「きやべつ」の三つのカードを並べて、それぞれ受容と表出の両面から弁別させる必要がある。

(2) 単語の読み

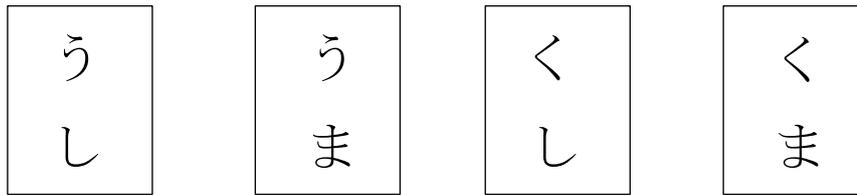
ひらかなの一つ一つが読めるようになったら、それを組み合わせたものを意味のある単語として認識させる練習をしよう。

このとき、「きりん」「ぞう」「かば」「うま」などの単語を並べて、「うまはどれ?」「きりんは?」と言って選ぶことができたとしても、それだけでは、これらの単語が「読めている」とは限らない。これらの単語は頭文字が皆違うので、頭文字だけで判断している可能性があるのである。

そこで、「かば」「かめ」「かも」のように、頭文字が同じ単語を並べて、受容表出の両面から区別させる必要がある。

逆に下の文字だけを見ている子もいるので、「あし」「なし」「くし」のように上の文字だけ変える練習をする必要もある。

最終的には、「うし」「うま」「くし」「くま」のように上の文字も下の文字も違う2×2の組み合わせを考えて、それでもこちらが「うし」と言ったら「うし」のカードを選べるようにする。



三音の単語でも、「おかし」「おすし」「あかし」「おかき」など、似ている単語の弁別の練習をある程度する必要がある。

文字カードを読ませて、それにあたる物の絵や3Dフィギュアを選ばせることも大切。逆に物の絵や立体を見せて、文字カードを選ばせることも。

(3) カタカナの読み

カタカナの読みは年長組のうちに教えておこう。小学校に入ると、漢字で手一杯になるから。

教え方はひらがなと同じ。似ている文字もあるので、平かなの半分以下の時間で習得できるはず。

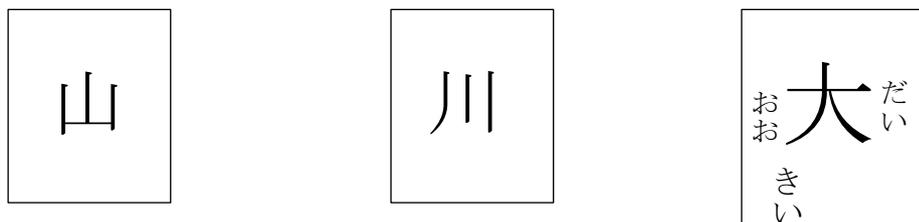
<長音>

カタカナ独特の問題は、「コーヒー」「カレー」などの伸ばす音の識別である。

例えば「コーラ」「コラ」「コラー」「コーラー」のように長音をいろんなところにつけ、あるいは全くつけないとどんな発音になるのか、こちらが言って見せて、選ばせる必要がある。

(4) 漢字の読み

小学校に入ったら、すぐに漢字の読みを教え始めよう。教え方はひらがなやカタカナと同じで、受容から始める。ただし漢字カードの裏によみを平かなで書いておくと、途中から興味を持って裏を見て覚える子が多いので、お勧めである。



<複数の読み・送り仮名>

例えば「大」には「だい」と「おおい」の二つの読み方がある。しかも後者の場合は、送り仮名をとる。この場合は「大」のカードに、二種類の読みがなを書いておくとよい。「おおい」でも「だい」でもカードが選べ、読めるようにする。

2. 文の理解

(1) 音声指示を文字に

「たつて」「ぱちぱち」「あたま」「ばんざい」「ねんね」など、身振りの音声指示を文字カードにして、それを見せて読ませて、その動作ができれば強化する。

た つ て

ぱ ち ぱ ち

ね ん ね

(2) 物×指示を文字に

物×指示を文字カードにして、物とそれに関する指示を選ばせる。

た た い て	り ん ご
------------------	-------------

た べ て	り ん ご
-------------	-------------

た た い て	ば な な
------------------	-------------

徐々に助詞も取り入れて、より本格的な文章に。「りんごをたたいて」など。

(3) 構文カードを文字に

た べ て る	り ん ご を	ぱ ぱ が
------------------	------------------	-------------

き つ て る	り ん ご を	ぱ ぱ が
------------------	------------------	-------------

き つ て る	り ん ご を	ま ま が
------------------	------------------	-------------

た べ て る	り ん ご を	ま ま が
------------------	------------------	-------------

読ませた後、該当する絵カードを選ばせる。逆に絵カードを読ませてから、文字カードを選ばせる。

(4) 質問の弁別を踏まえて

ま ま は	す ー ぱ ー で	き の う	こ ろ ん だ
-------------	-----------------------	-------------	------------------

「ママはスーパーで何をした?」「ころんだ」「いつころんだの?」「きのう」「どこでころんだ?」「スーパーで」